

しか おい

議会だより

第110号

鹿追幼稚園の新入園児。「ようちえんって、楽しいー！」

新年度予算議決

大型の継続事業、緊急性の高い政策予算

7議員が一般質問

□ 2011年4月25日発行

■ 発行者 北海道鹿追町議会

【E-mail】 gikai@town.shikaol.hokkaido.jp

【URL】 <http://www.town.shikaol.hokkaido.jp/>

クローズアップ 2011 主要事業

いずみの団地第4次分譲

6674万円

一区画140坪から180坪で22区画の販売を予定しています。



いずみの団地第3次分譲地

公営・町営住宅の充実

3450万円

旧泉町自衛隊官舎8戸の改修、緑町中央団地8戸の新築を実施します。
(旧泉町自衛隊官舎は、急遽東日本大震災の被災者の受け入れ住宅として用意されました)



旧泉町自衛隊官舎

子育て支援

1357万円

子育て支援センター運営をはじめとして、育児不安や孤立感の解消につとめ、こどもを生き育てやすい環境づくりを行います。



瓜幕保育所のこどもたち

少人数学級の実現

1118万円

町単独で教諭免許を有する者を採用し、鹿追小学校と鹿追中学校にそれぞれ配置し、児童、生徒個々に応じたきめ細やかな指導体制を実施します。



鹿追中学校

子宮頸がんワクチン等全額助成

1050万円

子宮頸がんワクチン、ヒブワクチンおよび小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用を全額助成します。

鹿追町魅力発見フォトコンテスト

200万円

全国を対象に「鹿追町」をテーマとする写真を募集したコンテストを開催し、鹿追町へ来る動機付けをうながし、全国的知名度のアップにつなげます。



国保病院増改築事業

2億4904万円

工事の2年目となる平成23年度は、診療室・救急処置室等診療棟の増築工事と透析・リハビリ室等北側1階の改修工事を行います。



完成した病棟

30人学級
教員の加配に期待!



緑町1
菅原裕也さん

カナダ学や地球学など、町の特性を生かした小中高一貫教育をはじめ、子どもたち一人一人に行き届いた指導の取り組みに期待するとともに感謝します。

役場庁舎ロビー改修

400万円

役場庁舎ロビーをサロニ化改修し、小会議や打ち合せができるようにします。



現在の役場ロビー

待ち望まれる病院の改築



栄町1
加藤千春さん

地域に病院は絶対必要です。私はまだ健康で病院に行くことはありませんが、近くに病院があるとただで安心して暮らせます。新しい病院が待ち望まれます。



つぶやき

■4年に1度の皆さんからの洗礼を受ける時期が来ました。あらためて気の引きしる思いです。

7人の 議員が 町政を問う。

飯沼新吾議員
口蹄疫等防疫対策の強化を



台蔵征一議員
瓜幕地域の住宅対策と活性化を



山岸宏議員
行政区活動に町職員の支援を



埴淵賢治議員
文化施設の一部成すアートギャラリーの建設



狩野正雄議員
農芸公園ハウス施設の活用方法は



川染洋議員
本町の今後の行政施策は何か大事か



上嶋和志議員
農地集積円滑化団体の設置は



Q 口蹄疫等防疫対策の強化を

A 全町的に対策強化をはかります



飯沼新吾議員

られる防疫対策をいかに効果的に行うかが重要な課題です。

町として次の項目について農業者はもちろん、関係機関と連携をはかり、なお一層の対策をはかるべきです。

1、全町民及び全町内出入り業者に啓発と協力を求め意識の高揚をはかること。

(答弁) 吉田町長
町民の方々と業者関係の方に徹底します。

(質問)
2、伝播防止のための看板



町営牧場

(答弁) 吉田町長
町農協、酪農振興会と協力し農家の入り口等に看板を設置し、来訪者に喚起をうながします。

等の設置は。



牛舎前に設置された啓発看板

方に徹底をします。

(質問)

4、農業者の生産と生活を出来るだけ区別し分離することの啓発が必要では。

(答弁) 吉田町長

生産現場と生活をしっかりと分けることよって伝播等の防止になると考えられますので啓発につとめます。

(質問)

5、農業用運搬車両消毒施設の設置は。

(答弁) 吉田町長

関係機関の協力と連携により、車両消毒施設の徹底をはかりたいと考えて検討しています。

Q 瓜幕地域の住宅確保と学童保育の実施を

A 住宅確保は必要、学童保育も検討します



台蔵征一議員

(答弁) 吉田町長

①については、瓜幕地域における住宅対策は必要と認識していますので、町としては民間主体での住宅確保と併せて公営住宅の整備も考えています。

また、従業員確保という視点からの住宅施策と、更に別な従業員確保対策も必要と考え、検討をしています。

(質問)

農家戸数の減少にあわせて、酪農家の規模が拡大し、労働力確保が最も重要な課題となってきました。瓜幕地区だけでも30人以上の方々が就労し瓜幕の活性化にもなっています。

しかし、酪農家個人の従業員住宅だけでは足りません。

地域の人口維持のためにも地域力を生かした活性化対策が重要と考え、次の2項目について質問します。

- ①農家従業員や留学生、移住者の住宅の確保。
- ②瓜幕地区での学童保育の実施計画は。



瓜幕市街分譲住宅

Q 行政区活動に町職員の支援を

A 要請があれば必要に応じて協力



山岸宏議員

②の瓜幕の学童保育の実施については、人数の多少にかかわらず保育環境の支援は必要と考え、既存の保育所を利用し保育が可能かどうか、職員体制も含め検討します。



瓜幕保育所

の支援体制を検討すべきと考えます。

行政区の運営は自主的に行うのが原則であることは、十分承知していますが、今後益々高齢化が進み、町としての支援は不可欠と思えますが、町長の所見を尋ねます。

(質問)

地域住民の共同組織である行政区は、住民相互の協力により、幅広い活動を行っています。特に葬儀については、お手伝いする方々が高齢者となり、その執行に困難をきたすところが増加すると予想されます。

そこで私は、葬儀に際して行政区から要請があった場合の対応として、町職員



町内会による葬儀の手伝い

(答弁) 吉田町長

これまでも、同じ地域や行政区で葬儀が重なった場合、また相談があった場合には職員が協力しており、今後も地域マネージャー等を通して町に相談があれば支援が出来るものと考えています。

葬儀については、地域の方がごぞつて協力をするという、日本における素晴らしい文化と考えており、そうした意識が薄れないようにとの期待も持ちながら、できるだけの協力はしていきたいと考えています。



笹川地区の子ども神輿



つぶやき

■震災復興のためにも私たちが毎日できること、「風評に惑わされずに必要なものだけ買い求めましょう」

文化施設「アートギャラリー」の建設



埴淵賢治議員

総合計画に盛り込むも、慎重な検討が必要

本町では生涯学習の活動が盛んですが、文化活動の成果を常設して展示できる環境は少なく、また道内外からの作品に対しても時間と場所に制約があります。その解消策として、町の基本構想の実施計画にもあります「アートギャラリー」の建設に関係町民は大きな期待を寄せています。神田日勝記念美術館に併設することで相乗効果も生まれ有効と考えます。これまでの検討、研究の結果もふまえ町長の考えを尋ねます。

(答弁) 吉田町長
ギャラリー建設の可能性



神田日勝記念美術館

について、何度か一般質問で答弁した経過があります。美術館の機能として企画展示室があることはベストとは考えます。前回の質問時にも答弁しましたが、多大な費用をかけて十分な機能を備えた施設を準備することは難しく、空調設備を備えない程度の施設であれば増設も可能です。神田日勝記念美術館の来館者をターゲットにリピーターを増やす方策を考え、その取り組みとして、企画

展等は可能な限り美術館内で実施しています。その結果、常設展示と企画展示が同時に同所で開催され来館者に好評をばくしています。議員ご提案のアートギャラリーの建設は、美術館の機能が充実強化されると考え、第6期総合計画に整備の方向で盛り込んでいますが、国策等の見直しをふまえ慎重な検討が必要と考えます。

農芸公園大型鉄骨ハウス施設の活用策は



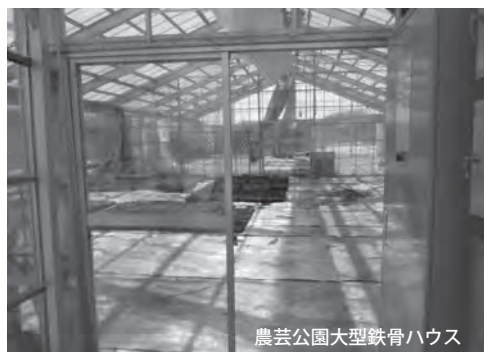
狩野正雄議員

育苗施設で継続利用

(質問) ①ハウスを利用して花苗、野菜づくりで高齢者の経験や技術を活用しては。②大型のハウスをゲートボールコートなど健康増進の施設として開放する考えは。

(答弁) 吉田町長
農芸公園に2棟あるミラーハウスの内部整理が完了し、全面的に利用できる

ようになりました。東棟につきましては中仕切りや2段階の温度調節も可能であり、花係やもみじ工房の育苗施設として効率化をはかりながら継続利用します。介護予防センターの室内ゲートボール場は葬儀等で利用が重なる不便さもあります。ミラーハウスの西棟はゲートボール場としての利用も可能ですが、本来の目的である農業用ハウスとして利用を考えています。農芸公園整備も実施しているもので、一体的に機能させ、花を見せるための施設、農業の試験栽培施設として有効利用をはかりたい。



農芸公園大型鉄骨ハウス

(質問) 高齢者の中には、運転ができない、運転が不安という交通弱者が増えていきます。オンデマンド方式(需要に応じて)で、高齢者などがスクールバスを利用することは可能ですか。

(答弁) 吉田町長
スクールバスの利用は可能です。デマンド方式は必要と考えますが、街の中も農村部もきめ細かくまわる方法を考える必要があります。沖繩の「ゆいまーる」という助け合いの思想を、この町でも構築する方法がないか研究したい。

鹿追町にとって大事な施策とは



川染洋議員

個々に充分な協議を行いたい

(質問) 1、高齢者や運転免許のない住民の足の確保が必要。

(答弁) 吉田町長
1、高齢社会にあつて足の確保は重要、患者輸送バス、スクールバス、民間と協議を重ね実施をしたい。

(質問) 2、協働の町づくりには行政区の見直しが必要では。

(答弁) 吉田町長
2、役場のご用聞きではない、自分たちが考えて地域づくりをする組織作りが必要だと考えている。

(質問) 3、町が進めようとしている計画を具体的に住民に知らせるかどうか。

(質問) 6、町づくりの原点は消費者の増加が必要。
(答弁) 吉田町長
6、大都市圏の自治体との友好、人的、経済交流の活性化をはかりたい。

(答弁) 吉田町長
3、町民に浸透する情報の共有化を図っていききたい。

(質問) 4、学校図書室に専門の司書教諭の配置を。

(答弁) 吉田町長
4、鹿追町図書館司書との連携を図りながら学校図書室の運営をしていきたい。

(質問) 5、基幹産業の農業を成長産業とするために本町在住の人材の協力による未来農経塾の創設が有効では。

(答弁) 吉田町長
5、民間の優れた人材のご協力を頂くことは重要なので検討したい。

(質問) 畑作農業戸別所得補償制度にともなつて、農地を借り受けた農業者を対象に10アール当たり2万円の規模拡大加算措置が2011年度より実施されますが、



上嶋和志議員

農地集積円滑化団体の設置は

農業委員会との連携により設置を

(質問) 7、学童保育の更なる活動を推進すべきでは。

(答弁) 吉田町長
7、十分現状を把握し、対応していききたい。

(質問) 8、障害児童の安心と安全のための施策は。

(答弁) 吉田町長
8、グループホーム、ケア

ホームなどによる安心して生活できる場を確保したい。

(質問) 9、人口減少のおり鹿追町の出生率の向上を促すには。

(答弁) 吉田町長
9、育児不安や孤立感の解消に向けた相談体制などを充実し、子どもを産み育てやすい環境作りをします。

必須条件となっている「農地集積円滑化団体」と「農業委員会」の役割は共通点が多いと考えます。農地集積円滑化団体の設置時期と委員の構成は。

農業者戸別所得補償制度

米、麦、大豆、テンサイ、でん粉原料用バレイシヨ、ソバ、ナタネが対象作物となります。品目ごとに生産数量目標に従つて、生産する販売農家と集落営農を支援する制度です。



農地再編・換地委員会



つぶやき

■バイオガスを利用した野菜の栽培。2月下旬に種まきをしたキャベツ、白菜が青々と成長。学校給食で子どもたちに楽しく食べてもらいたいなあ。



議会改革度調査（早稲田大学マニフェスト研究所実施）の結果によると、鹿追町議会は全道で14位（道・市・町含む）という改革度の結果でした。改革を実効のあるものにするのはこれからです。更に改革に取り組みます。



3月定例議会

「議会基本条例」が 5月1日から本格施行 されます。

「住民参加型の開かれた議会」との思いで、議会の最高規範である議会基本条例が制定され、5月1日から本格的に施行されます。皆さんと直接対話できる仕組みを決めました。

懇談会

あらかじめ用意した議題について説明し、質疑応答等を行います。
遠慮のない意見交換で、自由な形の懇談を行い合意や理解をはかります。

まちなか会議の開催

議会では、次の様々な直接対話の場をもうけ皆さんとの意見交換を行います。
皆さんからいただいた意見、提言、要望などはその内容を判断して、町への要望、議会としての政策提案など適切な対応をします。

議会に寄せられた声



議会広報モニター 秋田芳通さん

ひらかれた町民参加の議会運営を行うには、まず議会と町民間の情報が交流することが必要。
そのためには議会から積極的に情報を発信する事、そして町民からの意見、情報を十分に聴く耳を持つ事が大切だと思います。

議会報告会

議会関係の諸事項について報告会を行います。
報告した内容について質疑応答等を行い、議会活動への理解と周知をはかります。
ただし、意見・要望等があった場合は、回答ができるもの、持ち帰り検討とするもの、行政へ伝言するもの等、適宜、適切な取り扱いをはかります。

議会に寄せられた声



議会広報モニター 坂本美智子さん

町内各所での町民との対話は、意見交換の中で、町は今何をやるうとしているのか、町民は今何を求めているのか把握できる貴重な場です。
『住民参加型の開かれた議会』として期待と注目をします。

出前委員会

議会の各委員会において、それぞれの所管事務に関する議題について、より多くの町民の傍聴を図り、各地（所）へ出向いて委員会の開催を行います。

お呼ばれ懇談会

町民やグループ、団体等から呼びかけに応じ、議員・議員と懇談会を行い、意見交換、提言、要望など幅広い内容で懇談、交流を行います。



町民意見交換会

意見交換会

一つのテーマを定め、そのテーマについて皆さんからの意見の聴取、意見交換、情報交換等を行います。

議会に寄せられた声



議会広報モニター 遠藤早智子さん

ひらかれた議会、わかりやすい議会を目指した「議会基本条例」も、住民の関心事として広く浸透してくれなければ意味もないこと。議会だよりの106号に掲載の「四つのポイント」を見直ししながら期待も大きくなっています。



つぶやき

■災い（わざわい）は、忘れたところに・・・、いやっ、この大震災は一生忘れてはいけない。



町民意見交換会

第2の基幹産業としての観光振興

景観と温泉資源の活用で魅力的な商品開発をすすめること。さらに、豊富な農畜産物を加工調理して提供するなど、特色ある食と観光ガイドによる地域情報の発信が重要です。

地域資源の活用

◇根室市厚床



広大な牧草地をフットパスに活用（左端がオーナーの伊藤さん）

観光案内ガイドの育成と活動内容

◇青森市三内丸山



国の史跡、青森市三内丸山では観光ボランティアが大活躍。古代の歴史ロマンをユーモアを交え案内しています。

温泉資源の活用状況調査

◇然別湖



ホテル福原坂本支配人より山田温泉において説明を受ける。



ボランティアガイドも専門的知識を深めるため自己研修。

町立病院の運営管理

増改築工事は外来患者や入院患者の診療と並行して進められています。細心の注意を払いながら綿密な工事計画のもとで進捗していることを報告します。

一部完成した、新しい病院



明るく快適な病院です。



つぶやき

■ 桜だ、花見だ、全道1長い然別川の桜並木も移植して20年（平成28年）が過ぎ、名実共に桜の名所になりました。楽しく鑑賞し、大切に育てたいものですね。

産業厚生

常任委員会

最終報告

産業厚生常任委員会は平成19年6月から平成23年2月までの間、「バイオガス活用」・「観光振興」・「病院の運営」をテーマとする、継続した所管事務調査を実施しました。

バイオマスエネルギーの利活用と事業化・運営管理

酪農業にとって家畜排泄物の適正処理は大きな課題であり、特にふん尿の散布時期には苦情も多く寄せられていました。

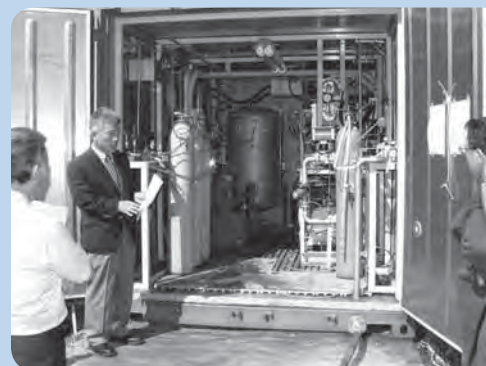
この解決策として、町ではバイオスタウン構想を策定し、家畜排泄物を資源として活用する集中型バイオガスプラントが建設されました。この施設は地域の環境保全や農業振興に寄与するだけにとどまらず、新エネルギーの実証プラントとしても注目されています。

委員会では経済産業省の再生可能エネルギー全量買い取り制度について、同省北海道局を訪れプラントの経済効果や将来展望の研修を実施しました。

今後は、設備機械や収集・散布車の修繕、発電機の更新などのランニングコスト増が見込まれます。費用の捻出方法や稼働方法についてが課題となります。

バイオガス利用の実証試験

◇別海町



別海町環境推進室の登藤氏よりバイオガス充填方法を学ぶ。

新エネルギーの活用と施設を調査

◇岩手県葛巻町



岩手県葛巻町町営牧場に建設された風力発電施設。

プラントの運営管理・消化液の利用、研修棟の完成

◇中鹿追



消化液は専用機械で畑に散布されます。



環境保全センター研修棟、最大80人の研修ができます。



最後の修了生
山本芽生(めばえ)ちゃん

きたしかおいほいくしよ、
54ねんかんながいあいだ、
おつかれさまでした。
しかおいしょうがつこう
へいっつてもがんばります。

(取材・インタビュー) 安藤幹夫



北鹿追保育所は昭和32年「お母さんたちが安心して農作業に従事できるように」との声から、地域の婦人会が中心となり開設、現在では通年保育所として運営されていきました。
近年の少子化により54年間の歴史とともに閉所することになりました。4月からは鹿追保育園で新しい環境の中、元気で健やかに育っていつて欲しいですね。



長い歴史にピリオド ◆北鹿追保育所閉所式



鹿追酪農振興会
鈴木敏勝前会長

生乳出荷10万トンは、関係機関の皆様のご尽力により成し遂げることができたものです。
酪農の置かれている社会状況は決して良いとは言えませんが、おいしい牛乳を提供し消費者の信頼にこたえていくためにも、振興会が一丸となって頑張ります。

(取材・インタビュー) 安藤幹夫



鹿追町の牛乳の生産量が、永年の念願でした年間(1月~12月)生乳出荷乳量10万トンを突破しました。
鹿追町の酪農は1914年赤牛3頭の導入が始まり、96年の歴史があります。その間、高位生産や規模拡大の努力により今回の偉業が達成されました。
また生産量だけでなく、高品質で安心安全な鹿追産牛乳の安定供給に、酪農家のみならずの日々の努力に頭が下がります。

生乳生産量10万トン突破!

編集後記

東日本大震災で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

さて、議員として4年間の議会広報づくりもこの一回が最後の一区切りとなります。この間、町民の皆様に議会が理解されるように努力をしてきました。議会広報コンクールでは、議会広報モニターの方々のアドバイスもあり、北海道で入選、全国では入選を逃したものの高い評価を受けました。来期は新たなメンバーで、町民の皆様に議会の活動をお知らせしていきますので、どうぞ隔から隔までお読みいただきますようお願いします。

(広報特別委員会委員長 川染 洋)

議会広報特別委員会

- 委員長 川染 洋
- 副委員長 山岸 宏
- 委員 安藤 幹夫
- 狩野 正雄
- 飯沼 新吾